

サガハイマツト通信

VOL.13

(平成28年6月号)

7月16日に一般公開



重粒子線の治療について説明を受ける一般参加者(2015年7月の一般公開から)



公益財団法人
佐賀国際重粒子線がん治療財団

理事長 中川原 章

理事長あいさつ 次世代型治療室の準備も着々

九州初となる重粒子線によるがん治療施設「九州国際重粒子線がん治療センター」(愛称:サガハイマツト)は、2013年5月の開設以来、1400人を超える患者さんの治療を行いました。その居住地域は、九州各県のみならず、東京、大阪、遠くは北海道や沖縄からお見えになっており、改めて、この施設のもつ意義を認識した次第です。さらに、患者さんにスムーズな治療を提供するために、現在稼働している2つの治療室A、Bに加え、次世代型の3次元スキャニング照射装置を備えた治療室Cが、17年春に稼働予定です。

これからも着実に治療実績を積み重ね、サガハイマツトへの信頼をさらに高めていきたいと考えていますので、引き続き、サガハイマツトへのご支援、ご協力をお願いします。



SAGA HIMAT

SAGA Heavy Ion Medical Accelerator in Tosu

サガハイマツトは、九州国際重粒子線がん治療センターの愛称です

サガハイマツトの受診に関する相談窓口

電話 0942-50-8812

(受付時間:平日の9時~12時、13時~17時)

メール saga-himat@saga-himat.jp

塩山善之 新センター長 インタビュー



【略歴】

しおやま・よしゆき／医学博士。九州国際重粒子線がん治療センター副センター長を経て、2016年4月から同センター長就任。九州大学医学部を卒業後、同大学の放射線科に入局。高精度放射線治療、粒子線治療などでがん治療に携わってきた。前九州大学大学院医学研究院・重粒子線がん治療学講座教授。

治療と研究

4月からサガハイマツの新
が就任しました。重粒子線治療
ンター長に聞きました。

患者さんに寄り添った診察を

▼4月に新センター長に就任されて2カ月が経ちました。改めて重粒子線治療はどのようなものか教えてください。

重粒子線治療は、炭素イオンを光速の7割程度まで加速し、そのビームをがん病巣の大きさに合わせて照射する治療法です。がん病巣に集中的に照射することができるため、副作用が少なく、体への負担が少ないことが特長です。また、がんを殺傷する能力が高いことから、短期間で治療できるうえ、従来の放射線治療が効きにくかったがんに対しても効果が期待されています。

一方、重粒子線治療を行う施設はサガハイマツを含め、国内で5カ所しかありません。そのため、認知度の更なる向上がこれからの課題といえますが、サガハイマツは交通アクセスに優れているため、九州各地から訪れやすいという良さがあります。

▼新センター長に就任され、どのようなことを大切に
にして治療が行われていますか。

患者さんが「治療を受けてよかった」と満足してもらえる医療施設であること、また治療に至らなくても「サガハイマツで相談してよかった」と思ってもらえることを大切にしています。そのうえで、安全かつ有効な治療を提供することを念頭に置いて日々の治療に臨んでいます。技術的な面だけでな

く、患者さんが快適に治療を受けられるよう、患者さんに寄り添った対応を心がけています。

また、重粒子線治療はそのほとんどが先進医療です。手術に適さない骨軟部腫瘍がやっと公的医療保険の適用になったばかりです。今後は公的医療保険の適用拡大を進めていくために、治療データを整理し、重粒子線治療の有用性を証明していくための研究機関としての役割も担うこととなります。そのため、患者さん目線の治療と研究機関としての役割のバランスを取りながら、重粒子線治療の向上を目指していきます。

▼これまで患者さんの治療をされてきた中で、印象に残っていることは何ですか。

患者さんの離職率が少ないことが印象的です。仕事をしているサガハイマツの患者さんは、仕事をしながら治療に通う人がほとんどです。しかし、あえて治療期間は仕事を休んで、仕事をしていたらできなかったことをやってみたいという患者さんもいました。このようなポジティブな休み方ができるのも、体の負担が少ない重粒子線治療ならではのことだと思います。

公的医療保険適用で選択肢広がる

▼4月から骨軟部腫瘍への重粒子線治療が公的医療保険適用となりました。現時点での利用状況は
いかがですか。

のバランスを大切に

センター長に、前副センター長の塩山善之氏の現況や今後の展望などについて塩山新セ

公的医療保険の適用前の骨軟部腫瘍の治療件数は、治療開始から約2年半で24人でした。1か月に1人いるかいないかぐらいの割合でしたが、今年の4月からの約2カ月で既に6人が治療を受けています。公的医療保険適用で患者さんにとっての治療の選択肢が広がり、満を持して訪れた人もいます。

子宮がん・食道がんの治療開始に向けて検討会議開催へ

▼サガハイマツの今後の取り組みについてお聞かせください。

スキャンニング照射という最先端の技術を搭載した第3番目の治療室が、いよいよ来年4月から稼働できるよう準備が進んでいます。同時に、子宮がんと食道がんへ治療対象を拡大する準備も進めています。

現在、サガハイマツは外部の内科系、外科系の専門医を含めた形で構成される7つの臓器別の検討班を有しており、診療科の垣根を越えた検討会議を開き、治療実績の報告や治療方法の意見交換を行っています。今年の秋ごろまでにはサガハイマツで初めてとなる婦人科系の検討班を立ち上げる予定です。

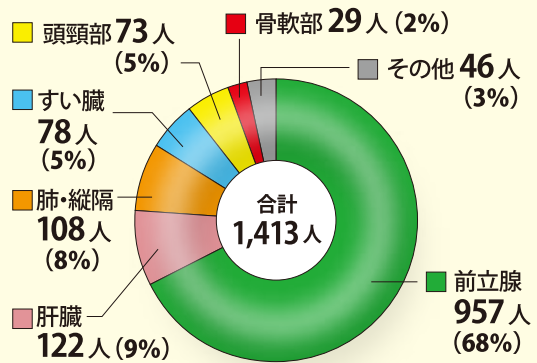
データで見るサガハイマツ

部位別患者数

2016年5月末日現在

前立腺がんが68%

部位別では、前立腺がんが957人で全体の約68%を占めました。最初に治療を開始したのが前立腺がんだったことが要因です。2番目に多いのが肝臓の122人で全体の9%。次いで肺・縦隔108人、すい臓78人、頭頸部73人、骨軟部29人、その他(※)が46人となっています。



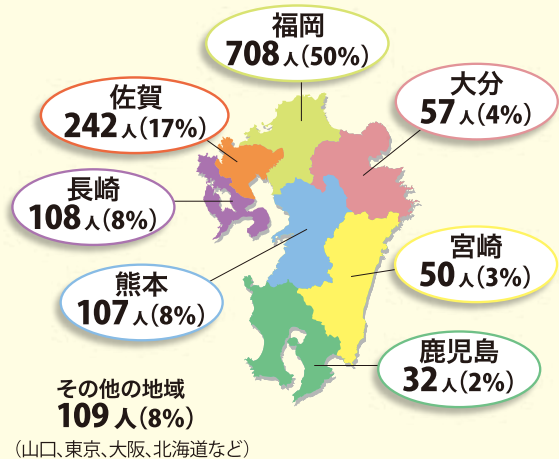
※その他は、直腸(骨盤内再発)、腎臓、リンパ節など

地域別患者数

2016年5月末日現在

患者数九州7県で約92%

都道府県別に見ると、福岡県が708人で最も多く、全体の50%。次いで佐賀県242人(17%)、長崎県108人(8%)、熊本県107人(8%)、大分県57人(4%)、宮崎県50人(3%)、鹿児島県32人(2%)となっています。九州7県で92%を占めています。



一般公開に
おいでください!

7月16日に加速器室などを一般公開

サガハイマツトの一般公開を7月16日(土)午前10時から開催します。玄関ロビーや診察室、治療ホール・治療室はもちろん、ふだんは見ることができない直径20メートルのシンクロトロンがある加速器室も見学できます。各ポイントで、スタッフが重粒子線がん治療について説明します。

当日は、サガハイマツトの正面玄関で受け付けます。事前申し込みは不要ですが、施設管理の都合上、当日受付の際、住所、氏名の記載が必要です。なお、当日はセンター駐車場は利用できませんので、公共交通機関をご利用ください。(午前中は混雑が予想されます)

※診療や装置の状況、その他やむを得ない理由により、一般公開の一部または全てを予告なく中止する場合があります。



加速器室の説明の様子

日時 **7月16日(土)10:00～15:00**
※最終受付は14:30
受付場所 **サガハイマツト正面玄関**
問い合わせ **佐賀国際重粒子線がん治療財団**
TEL 0942(81)1897
Eメール saga-himat@saga-himat.jp

スタッフ紹介

医長 **松本 圭司さん**

【略歴】

まつもと・けいじ / 1979年広島県生まれ。放射線医学総合研究所重粒子医学科学センター病院(千葉県)、九州大学病院放射線科などを経て2016年4月からサガハイマツト勤務。放射線治療専門医、がん治療認定医。趣味はロードバイク。



患者さんに向き合い不安取り除く

外来で新たに治療を希望する人の診察や、治療が終わった人の経過観察、これから治療を受ける人の治療計画を立てています。重粒子線治療は体の負担が少なく、有用性が高いことから、患者さんの期待値が高いなあと感じています。一方で、不安を抱えて外来を訪れる人も多いので、患者さん一人一人に向き合って不安を取り除き、患者さん自身が前を向いて歩けるよう寄り添っていきたいと思います。

●寄附をお願いします●

佐賀国際重粒子線がん治療財団では、引き続き皆さんからの寄附を募集しています。県内、ひいては九州のがん医療の充実につながるサガハイマツトへのご支援をよろしくお願いします。

なお、当財団へご寄附をいただいた方には、特定公益増進法人に対する寄附として、税制上の優遇措置があります。詳しくは、当財団までお問い合わせください。

サガハイマツト通信 vol.13

(平成28年6月号)

【お問い合わせ】

発行 ■ 公益財団法人
佐賀国際重粒子線がん治療財団 (担当)本村

所在地 ■ 〒841-0071 佐賀県鳥栖市原古賀町3049番地

TEL ■ 0942(81)1897 FAX ■ 0942(81)1905

HP ■ <http://www.saga-himat.jp/>